

学校教育目標	校訓「夢ひとすじに」 ○学び ○磨き ○鍛え ○羽ばたけ
目指す学校像	歴史と伝統を継承し、生徒一人ひとりが「夢と希望」「自信と誇り」をもてる教育を推進する学校
重点目標	1 「わかる」「できる」を実感できる授業を行うため、ICTを効果的に活用した授業の改善 2 いじめをなくす人権意識の育成と一人ひとりのよさを見出し認め、伸ばす指導の推進 3 地域、保護者から信頼される学校づくりの推進 4 施設・設備の点検、修繕による安心、安全な生活、学習環境の確保 5 キャリア段階に応じた教職員の資質向上と教職員事故を未然に防ぐ取組の実践

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

		学 校 自 己 評 価				学校運営協議会による評価	
		年 度 目 標		年 度 評 価		実施日令和8年2月20日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査では、国語、数学ともに、ほぼ市の平均と同じ。 ○ICTを効果的に活用した学習については、意欲的に取り組む生徒が多く、授業では自信をもって発表できる生徒が多い。 ○運動や合唱に、熱意をもって取り組むことができる。(課題) ○全国学力学習状況調査の結果より、国語の「言語の特徴や使い方に関する事項」に改善の余地がある。 ○生徒アンケートの結果より、家庭学習の習慣に課題がある。	・「わかる」「できる」を実感できる授業実践による学力向上	①学習内容への関心意欲向上を図るため、取り組む課題や課題の組み合わせ方を工夫改善する。 ②学習内容を振り返るとともに、繰り返し学習する機会を設定する。 ③自分の考えを説明する活動を重視し、生徒同士が学び合う機会を設定する。 ④合唱やものづくり等の体験活動を通して豊かな情操を育成する。	①学びの指標アンケート評価の維持向上 R6 主体的な学び3.29(市3.13) 探求的な学び3.26(市3.22) ②振り返りの時間、繰り返し学習する機会を設定できたか。 ③考えを説明する活動が設定できたか。 ④校歌を大切にし、誇りをもって歌うことができる生徒を育成できたか。	①学びの指標アンケート R7 主体的な学び3.30(市3.13) 探求的な学び3.27(市3.22) ②③振り返り、くり返し学習する機会、考えを説明する活動を適所に授業に設定した。 ④始業、終業式に校歌を練習する時間を加えることで、校歌を大切に育んだ。	A	①②③ AI推進校の委嘱を受け、教科指導への有効な利活用について研究実践を行うことで、生徒の主体的な学び、探求的な学びの向上を図る。また、学習評価の在り方について研修を深め信頼性、妥当性のある評価を目指す。 ④引き続き、合唱やものづくり等の体験活動をとって豊かな情操を育成し、生徒の非認知能力の向上を図る。
		・ICTを効果的に活用した授業の改善	①スタディサブリの活用により、理解度に応じた内容を学習できるようにする。 ②他者の考えと比較することで、よりよい解決方法を見出すことができるようにする。	①スタディサブリの活用率を向上する。 R6 9月48% 10月74% 11月60% 12月51% ②学びの指標アンケート ICT活用評価維持 R6 ICT活用3.06(市2.93) ③ICTを活用した授業公開ができたか。	①スタディサブリ活用率 R7 8月42% 9月35% 10月37% 11月26% ②学びの指標アンケート R7 ICT活用3.12(市2.93) ③指導課訪問においてICTを活用した授業公開を全教員が行った。	B	①②③ AI推進校の委嘱を受け、教科指導への有効な利活用について研究実践を行うことで、生徒の主体的な学び、探求的な学びの向上を図る。
2	(現状) ○R6年度学校評価アンケート(生徒)「友達関係はうまくいっていますか」96.0%「いじめなどを見逃すことなく、思いやりをもった生活ができていますか」96.6%であった。 ○R6年度欠席30日以上生徒の割合は8.6%であった。(課題) ○いじめを見逃さず、困り感のある生徒を支援し、いじめ事案に速やかに対応し、その後の見届けにより解決に導くこと。 ○個に応じた居場所づくりを推進し、登校するよさを味わわせること。	・いじめをなくす人権意識の育成	①週1回生徒指導委員会でいじめ事案の認知、経過、解消を確認する。 ②SNS利活用、人権意識向上、いじめ根絶に係る講演の実施。 ③いじめについて考える学級討議の実施。	①いじめ事案解消率が改善できたか。 R6(13/17 76.4%) ②SNS利活用、人権、いじめ根絶をテーマとした講演会が実施できたか。 ③いじめについて考える学級討議ができたか。	①いじめ事案解消率 R6(13/17 76.4%)→R7(9/13 69.2%) ②校長講話や講師を招聘した講演で、SNS、人権、いじめをテーマとした講演を実施した。 ③2学期に全クラスで、いじめについて考える学級討議を実施した。	B	①②③ いじめ防止に係る生徒の主体的な取組を支援し、専門委員会や部活動を中心として、生徒が自ら考え、自ら行動して、いじめ撲滅に取り組める活動を実施する。 いじめ防止の取組の現状について、学校運営協議会で生徒から報告させる。
		・一人ひとりのよさを見出し、認め、伸ばす指導の推進	①週1回教育相談部会で支援の必要な生徒への指導方針を確認する。 ②心と生活のアンケート実施時に、全生徒を対象として二者面談を実施。 ③オンライン授業、タッチ登校、Solaを一む、相談室の活用を通じて、個に応じた不登校生徒への対応の実施。	①欠席30日以上生徒率が改善できたか。 R6 92/1066(8.6%) ②心と生活のアンケートに係る二者面談を学期に1回、全生徒と実施できたか。 ③アンケート結果より、生徒の不安が解消されたかと見とれたか。	①欠席30日以上生徒率 R6 92/1066(8.6%)→R7 103/1062(9.7%) ②二者面談を学期に1回、全生徒に実施できた。 ③欠席30日以上生徒率減少により、学校へ登校できている生徒が増えたと言える。	B	①②③ 個に応じた教育の充実を図るため、出席扱いとするオンライン授業の要件について整理し、生徒の事情に採りて実施する。
3	(現状) ○学校だより発行やホームページ更新により、教育活動を保護者や地域に発信している。 ○コミュニティ・スクールの目標を「地域に愛される子どもの育成」とし、それぞれの立場から学校教育に貢献できるように取り組んでいる。 ○コミュニティ・スクールの一環として、「みやはらまつり」での中学生神輿渡御、レッツ・ジョイン・クリーン活動を実施している。(課題) ○連絡用アプリを活用して、学校だよりや通知を保護者へ直接送付すること。 ○学校運営協議会に生徒を参加させ、生徒の活用や学習の現状について熟識すること。	・教育活動内容を周知する機会を充実する。	①月1回の学校だより発行。週1回学校の教育活動を知らせるホームページの更新。 ②オクレンジャー(連絡用アプリ)を活用した通知の電子化。 ③学期に1回以上の学校公開日を設定。	①学校だより月1回発行、ホームページの更新週1回ができたか。 ②オクレンジャー(連絡用アプリ)を活用して通知の電子化ができたか。 ③学期に1回以上の学校公開が実施できたか。	①学校だよりを月1回発行し、HPに掲載した。また、2か月先の主な行事予定についてHPに掲載した。 ②連絡用アプリを活用して、学校だより、学年だより、その他通知を送付した。 ③学期に1回以上、学校公開を実施した。	A	①②③ 保護者や地域の方の目に留まる内容の発信を心がけ、毎月1回学校だよりを発行する。連絡用アプリを、各種たよりの送付や学校の取組への保護者や地域の方への参加を募るツールとして活用する。
		・それぞれの立場や役割で協働する学校の教育活動の推進(コミュニティ・スクールの推進)	①「みやはらまつり」での本校中学生による神輿渡御 ②レッツ・ジョイン・クリーン活動の実施。 ③学校だよりやホームページにより、地域と学校の関わりについて保護者へ周知。 ④学校運営協議会へ生徒を参加させる。	①「みやはらまつり」中学生神輿渡御を実施できたか。 ②レッツ・ジョイン・クリーン活動を実施できたか。 ③学校教育における地域の役割や貢献について発信できたか。 ④学校運営協議会に生徒を参加させられたか。	①「みやはらまつり」で100余名の生徒が神輿渡御に参加した。 ②レッツ・ジョイン・クリーン活動に、300名余りの生徒が参加した。 ③学校だよりを月1回発行し、地域に配付した。 ④第2回学校運営協議会で、生徒総会で生徒から提案された課題と改善策について、「熟識」に生徒会本部役員を参加させ協議した。	B	①②③ 生徒の活躍や成長を間近で実感していただく機会として、地域行事への参加について、生徒及び教員に加え、保護者の参加も工夫して募っていく。 ○学校だより等での発信を継続してください。
4	(現状) ○施設が老朽化しているが、子どもの教育活動に支障のある箇所を優先して、修理、修繕を行っている。 ○ICT機器を活用した授業を充実するため、故障したタブレットには代替機を配付している。(課題) ○教室のドア、トイレの様式化、植栽の剪定、給食室機器の修理、不要備品の適切な廃棄を、優先順位を決めて行うこと。 ○熱中症、感染症等に対する対応を適切に行うこと。	・安心、安全な生活、学習環境の整備	①月1回の安全点検により、修繕箇所を把握し、予算等を考慮し、優先順位を決めて修繕を行う。 ②生徒の学校生活の安全、教職員の校務上の安全を確保するため、教育委員会と協働して施設整備にあたる。 ③熱中症、感染症の予防し、生徒の健康に配慮した学習環境を整備する。	①予算の範囲内で、学校修繕に取り組みできたか。 ②教育委員会と協働して修繕に取り組みできたか。 ③熱中症、感染症の予防策を講じ、生徒の校内罹患等を押さえることができたか。	①エアコン故障時に、修繕までの間、石油ストーブをレンタルし、対応するなどの予算執行を行った。 ②給食室食洗器、校地内の植栽剪定を、教育委員会に対応していただいた。 ③熱中症対応として、夏場の部活動実施時間を早朝、夕方に実施した。また、体育祭開催を5月に変更した。	B	①②③ リフレッシュ工事の延期が決まった。エアコンの対応年数が限界にきていることより、夏場の空調管理を重点に置いた予算執行が想定される。柔軟に対応していく。 植栽の手入れが行き届いていない。充てられる予算に限りがあるため、人の手で少しづつ対応する。
		・ICT機器の整備、補充による教育環境整備の推進	①学習用タブレット端末の持ち帰りを推進し、自立した学習者の育成に資すること。 ②破損、故障の対応について速やかに対応する。教育委員会と連携した代替機を確保する。	①学習用タブレットの持ち帰りを実施し、課題、学習動画視聴等に取り組ませることができたか。 ②代替機の対応を、速やかに行うことができたか。	①学習用タブレットの持ち帰りを実施し、課題、学習動画視聴等に取り組ませることができた。また、生徒の事情に応じてオンライン授業を実施した。 ②故障に伴う代替機の対応を速やかに行った。	A	①②③ I-Padへの移行が予定されている。学習利用、家庭利用のルールづくりや教職員のスキル向上に努める。
5	(現状) ○生徒指導、教育相談、保護者対応について、理解を深め、適切な実践力を身につけることが必要とされている。 ○教科指導と評価の関連について理解を深め、質の高い指導が実践できることが求められている。(課題) ○体験的な活動を通して、生徒の学ぶ意欲の向上を図ることについて研究すること。 ○ICTを活用した授業について研修し、その実践力を培うこと。 ○教職員事故を防止すること。	・キャリア段階に応じた教職員の資質向上	①教職員の年次研修、各種研修への参加を奨励する。 ②校務に必要な知識、技能を習得するための、講師招聘や、校内職員を指導者とした研修を実施する。	①ブランドを活用した研修受講が、推進できたか。 ②教職員の日々の校務に関わるニーズに応じた研修が実施できたか。	①文科省AI推進パイロット校の委嘱を受け、ICTの活用推進を行った。沖縄、筑波へ研修として教員を派遣した。 ②ICTに係る研修を教職員の要望により、DX推進部を中心に行った。	B	①②③ AI推進校の委嘱を受け、成果を市内で発表する。 教職員の経験に応じた研修受講を奨励する。 AIの教科指導への活用、学習評価を中心とした京岡獅童に係る研修を充実する。
		・教職員事故を未然に防ぐ取組の実践	①教職員事故防止に係る市教委のデキストを活用して、学期に1回研修を実施する。 ②年間の用務予定に応じて、その時期に気を付けるべき事故について周知し、危機管理意識を高める。	①教職員事故を、未然に防ぐことができたか。 ②起こりうる可能性のある事故について、タイムリーに指摘し注意を促すことができたか。	①大きな教職員事故はなかった。 ②事故可能性の予測に基づき、職務に関する注意喚起を、各主任を中心に行った。	B	①②③ 交通事故、文書管理、個人情報の取扱いについて、とくに注意を払い、定期に研修を行う。 生徒指導、教育相談に係る対応として、生徒や保護者へ対応する際のことばの選び方について注意を払い、研修を充実する。

学びの質の向上に関する取組

子どもの発達や心身のサポートに関する取組

地域とともに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組